

笑顔の女子学生囲碁「日本一」 商学部・高倉梢さん テレビにも出演中



中大に輝かしい記録がまた一つ――。3月13、14日

に京都市で開催された第39回女子学生囲碁選手権大会（全日本学生囲碁連盟主催、毎日新聞社など後援）で、商学部4年の高倉梢さん（写真）が優勝した。昨年、男子で同じ中大棋道会の白石雄一郎さんが優勝を果たしたのに続く快挙。女子学

生日本一の栄冠は中大初である。

大会には、全国各プロックから選ばれた22人の女子学生が参加、頂点の座を目指し戦った。高倉さんは関東プロックからシード枠で出場し、順調に勝ち進んで、立教大の松本有加子さんの決勝対局を、中押し勝ちで制し、みごと優勝した。

「はじめはしつけの意味で、祖母に勧められて。じつとしてない子供でしたから」という。一時期はプロを目標し日本棋院に所属。精進を重ねたが、「囲碁以外にも興味が出てきて」、大学進学を目指したそうだ。

4年生。就活のほうは？と聞くと、「囲碁インストラクターになります。囲碁の楽しさを多くの人に伝えたい」と、とつくに決定済みだった。通常の就活などは無縁だったわけである。

「学生日本一」は実力の証なよりの称号が加わったことになる。

じつは、すでに「囲碁サロン」の講師などもつとめ

似合う人である。

取材中も広報課の隅にある碁盤を見つけて、「うれしい」と笑顔になった。「誰かが囲碁をやっていると思うだけでうれしくなるんです」

なるほど囲碁は陣取りゲーム、戦術・戦略の天下取りにも重なるだろうか。碁の打ち方には性格が表れるとも言われるが、その先生の棋風は？「力強い。その一方できれいな正統派」だそうだ。

講師自身は？と聞いたら、「ピンチに強く、追いこまれたときに最大の力を発揮する。馬鹿力、なんて言われます」と笑った。笑顔の合政策学部1年）

商学部長から卒業証書を両親に 白血病で倒れた小野博史さん「遺影の卒業式」

卒業生が並ぶ式場の最前列に、特別に父兄3人の席が用意されていた。白血

病で26歳の人生を閉じた商学部7年生、小野博史さんの小さな遺影が、母・彰子

高倉さんは「決して余裕のある戦いではありませんが、優勝することができたのは自分の碁を最後まで打つことができたからだと思います」と振り返る。

囲碁を始めたのは6歳から。

囲碁を始めたのは6歳から。

病で26歳の人生を閉じた商学部7年生、小野博史さんの小さな遺影が、母・彰子



(54)の膝の上にあった。両隣に、父・功さん(59)と、2つ違いの妹・智子さん。03年度の文系5学部卒業式は3月25日、多摩キャンパス第一体育館で行われた。早春号既報のように、小野さんにとっては「遺影の卒業式」となった(「キャンパスNOW」特別版「それぞれの春 群像33」)。

学長祝辞。角田邦重学長はその冒頭で、小野さんのことに触れ、ご家族の悲しみに言葉を添えつつ、「小野君は病をかかえながら最期まで学業を怠らなかつた」と、その生涯をたたえた。家族は、遺影を学長の方に向けてるようにしながら、何度もハンカチを目に押し当てて姿が見られた。

小野さんは入学した97年夏に白血病を発病。いらい7年間、病と闘いつづける日々を送った。5年前に妹からの骨髓移植手術を受け小康を得たが、昨年に再発、ことし2月12日亡くなった。卒業単位になお4単位足りなかつたが、商学部教授会は平常点での評価で単位認定し、小野さんの卒業を承認した。

商学部では、式のあと商学部長室に家族を招き、酒井正三郎

大学数、学生数世界1 進む中国の大学改革 中国人民大学学長が来校・講演

学部長から小野さんの卒業証書が両親に手渡された。「さぞご無念でしょうが」「大学の温かい措置に感謝します。息子も喜んでいると思います」

学部長にお礼を述べる父の隣で、嗚咽が漏れる。とくに兄妹仲のよかつた智子さんはしゃくりあげるようにして、ずっとハンカチを目から離せない様子だった。同じ中大商学部卒の父・功さんのゼミの恩師、松本正徳教授(元商学部長)も同席した。

「君のときは卒業式がなかつたんじゃないか」「ええ68年で、値上げ反対闘争で卒業式は中止に。こういう形になりましたが、一緒に参列することができました」

中央大学の新たな協定校として昨年度から学術交流

が始まつた中国人民大学の紀宝成学長Ⅱ写真・次ページ左Ⅱが4月14日に来校、多摩キャンパスで講演会が行われた。

紀学長は1944年生まれ、60歳。専門は経済学だが、中国の教育問題、特に大学教育改革の専門家、中国の教育改革や教育管理

についての著書や論文も多い。人民大学では中国初のロースクールとMBAコー

スの成立を推進したことでも知られる。中国国務院学位審査委員会委員を兼任する。この日の講演のテーマは

「中国高等教育の現状及び改革問題」。2号館の研究会所会議室に、学生や教授らおよそ80人が集まつた。日本語訳は人民大学アジア日本研究センター長の陳健氏がつとめた。

現在、中国の高等教育の規模は世界最大だという。数字を挙げて語った。「文化大革命は中国教育

に多大な損害を与えました。しかし改革を行つて現在は2100の大学、800(900の民営の大学があり、学生数も1600万人います。入学生数は70年で全体の9・1%だったのが、2003年は17%でした。人口が13億人いることを考えると、大学生数も世界1ではないでしょうか」

国連教育科学文化機関(ユネスコ)が昨年発表した世界の高等教育の状況に関するレポートによると、



中国に次いで規模が大きいのは米国、インド、ロシア、日本の順。しかしその中国も「中国成立当初の1949年の段階では205校しかなかった」のだとか。その間の改革の歩みや、同時に改革が進み「エリート教育から大衆教育」に移行するにあたってでてきた問題点なども率直に語った。講演のあと、あいさつし

た角田邦重中央大学学長は、紀学長の日中比較に触れながらユニークな「日本の学生」グレーカラー」論を披露した。「日本は体を動かす人と考える人の区別がありません。例えばデパートの販売担当者は販売をしなから、お客が求めている製品を考え、それを研究者に伝える。日本の大学生は、ホワイトカラーでもブルー

カラーでもブルーカラーでもなく、グレーカラーになる。そんな印象があります」高等教育が大衆化してきたとはいえ、中国では「ホワイトカラー」論が根強く、大学の生のほとん

どもホワイトカラー志向だという。「中国の大学生もグレーカラーにならないければなりませんと伝えます」と紀学長が応じて、会場の笑いを誘った。

聴講していた闊笑揚さん（商学研究科修士1年）に感想を聞いた。

「13歳の時に中国から日本に来たので、今日は逆に中国の高等教育改革について教えてもらいました。貧富の格差で教育の機会が平等じゃなくなることが気にかかります」

中国政府は「教育の公平性を守らなければいけない」という方針を掲げているが、改革後、学費などの学生負担が増えているそうだ。学費はおよそ3000元（約39000円）から5000元。「農民の収入レベルは1年で1人あたりおよそ2600元で、3人の農民で1人の大学生を養えるくらい」というから、

「貧富の差が「知の格差」を加速させている現実もあるようだ。改革後の問題は山

積みなのかもしれない。（学生記者 西原香保里 経済学部3年）

「小泉再訪朝を評価」 平沢勝栄氏が多摩キャンパスで講演

元中大生、蓮池薫・祐木子さん夫妻ら2家族5人の子供が帰国した5・22小泉純一郎首相の再訪朝。その後というタイミングで、元拉致協議連事務局長、平沢

勝栄衆院議員（自民）の講演会（辞達学会主催）が5月26日、多摩キャンパスで行われた。2度の電撃訪中が世間を騒がせた。平沢氏は、昨年12月北京で、今年4月は大連で自民党の山崎拓・前副総裁と一緒に北朝鮮政府関係者と接触。家族会でも批判されたことで拉致協議連事務局長を辞めたいきさつがある。



「マスクコミ完全シャット

アウト」というポスターのインパクトもあつてか、クレセントホールは他大生や一般人もまじり1000人を超える盛況。平沢氏の発言に関心が注がれた。

「『朝まで生テレビ』は編集しないからイイ。『TVタックル』はハマコーさんがいるから編集するのは仕方ないけど」などと、前ふりはテレビ番組話で会場を笑いの渦に。後半は注目の首相再訪朝について。

「一定の成果を取めたと思いません」と、まず断言。「拉致問題は解決済み」と言い張る北朝鮮に「調査を白紙に戻す」と言わせたことは前進だとして、小泉首相の頑張りを評価した。さらに「拉致問題から、日本の国のあり方が見える」と熱のこもった弁論を練り広げた。もつとも首相再訪朝は別ルートだったともいわれ、そのせいか会談の裏話などは出ず、テレビなどです

でに発言ずみの内容にとどまった。

時間的な制約から、講演後の質疑応答では学生の鋭い質問に、少しまとまらな

い返答の場面も。しかし退場時、中大の旗にペコリと礼する姿に会場はまた沸いた。警視庁生活32年の生真面

目さか、それとも 持ち前の愛嬌か。会場は大きな拍手に包まれた。
(学生記者 江部理恵 法学部4年)

リ・メイダンさん(中国)とキム・ヒギョンさん(韓国)

「外国人留学生特待生」第1号に

「外国人留学生特待生」初めての特待生2人の採用の制度が今年度から始まり、式が6月15日、多摩キャン



パスで行われた。

特待生に選ばれたのは、商学研究科博士後期課程3年、リ・メイダンさん(中国籍) 写真・左と、文学研究科博士前期課程2年、キム・ヒギョンさん(韓国籍) 同・右。これは中央

の国際交流につとめてほしい」と激励した。

抱負を、と促されて、リさんは「とても光栄で感謝します。研究面では博士号

をとり教育者・研究者をめざしたい。また日中交流には日本の文化や習慣を理解する必要がある。日本の花はサクラ、中国はポタン。ポタンとちがつてサクラは

1つでは目立たない。はじめなじめなかったが、それがまとまったときの美しさが分かるようになった。私は帰国してからも、サクラの気持ちで、互いに愛しあ

える国際交流のありかたを考えたい」とスピーチした。またキムさんは「両親に伝えたらとても喜んでくれた。大学で学んでいる夫も祝福してくれた。大学院では日韓の結婚の比較研究をしている。幸せな家庭を築く研究を通して日韓の交流についても貢献したい」と

語った。